

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 すららネット

【サービス名称】

すらら サテライザー・すらら・すららドリル

【サービスの支援項目】

カテゴリー1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



1. すらら サテライザー概要、特徴

探究における基礎スキルを伸ばし、教員の負担軽減を実現する教材

導入によるメリット

- ・**授業準備や運用負担の軽減**
マニュアルが完備されているため、指導の統一化も実現
- ・**授業進度の統一化**
「未知」で「答えのない」テーマの実施のため、前提知識の差によるハードルを最小限にすることができる
- ・**生徒の能力を可視化、振り返りにも活用**
多角的な評価システムの完備によるルーブリック評価を導入している

学習に関連する効果または業務効率 利便性に関連する効果

- ・生徒自ら調べ、考え、まとめ発表する活動を通じて**考える力、コミュニケーション力**をはじめとする探究学習を進めるために必須となる力を身に付けることができる
- ・授業設計から実施後の評価まで指導マニュアルやワークシート、ルーブリックまで完備していることで、**教員の負担軽減と指導の統一化を実現**

類似サービスとの違い

特長/項目	すららサテライザー	類似サービスの課題
テーマ設定	未知のテーマであり、生徒間の知識格差が生まれにくい	生徒の背景知識や興味の強弱で取り組みの差が出やすい
授業の質	マニュアルにより、一定以上の質を確保	専門性や熱量によって、「ばらつき」が生じやすい
スキルの習得	情報整理や協働スキルなど、探究の基礎スキルを鍛えることに特化	成果物の作成が目的になり、汎用的なスキルが定着しにくい

サービスの活用場面、標準販売価格

総合的な探究の時間

・1,000円(税別)／月／名

※利用料に初期設定作業やアカウント発行作業並びに教員向けの研修費が含まれます。

※利用料に通信費は含まれません。

1. すらら・すららドリル 概要、特徴

AI×アダプティブ教材で学びの個別最適化を実現できるEdTechツール

導入によるメリット

- ・個々の生徒の知識定着を実現
20万問の問題数と多様な問題形式により、丸暗記にならず、力が付く
- ・自動作問や自動採点による働き方改革実現
目的に合わせたテスト機能によって、教科ごとや学年ごとなど用途に応じたテストの実施が可能
- ・個々に合わせた指導を実現
生徒の学習データを可視化できるため、課題の取り組み状況やつまづき単元など、児童生徒の学習状況を把握できる

学習に関連する効果または業務効率 利便性に関連する効果

- ・個別最適化された学習環境を用意することで、効率的な学習が可能
- ・今まで「分からなかったこと」が「分かるようになる」ため、自己効力感に繋がり、更なる学習に繋げることができる
- ・問題の自動作問や自動採点、学習データの利活用により、働き方改革や評価実施の際にもつなげることができる

類似サービスとの違い

特長/項目	すらら・すららドリル	類似サービスの課題
理解	既習範囲の復習から、中上位層の反転授業(先取り学習)が可能	講義動画や記憶定着に特化をしているため、動画パートがない
定着	生徒の解答に応じた演習で偏差値30台から60台まで幅広く対応可能	選択式の問題中心のため、適当に解答したり、同じ問題が出やすい
活用	簡単にテスト作成から復習までが可能	テスト実施に回数制限があったり、復習は講義動画のみで定着までが不確実

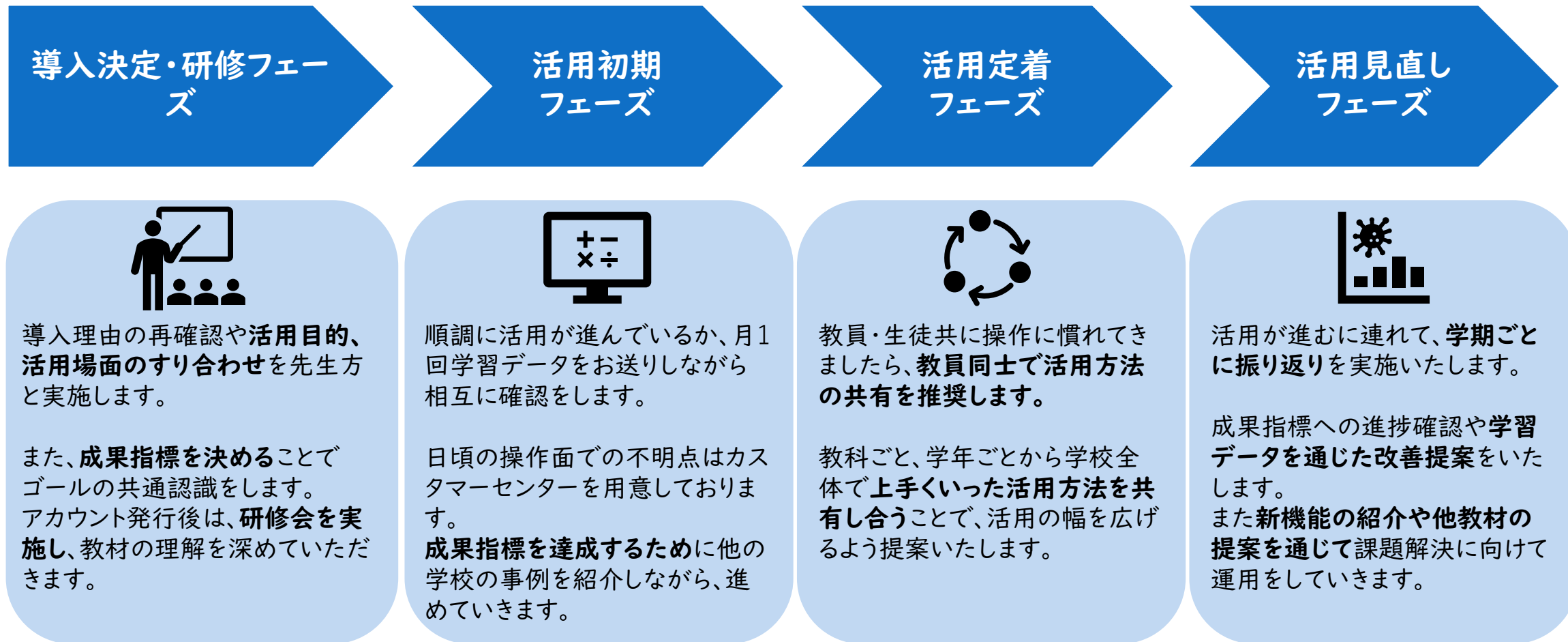
サービスの活用場面/標準販売価格

朝学習、授業内、長期休暇、家庭学習、放課後学習

- ・すらら:1,400円(税別)~/月/名
- ・すららドリル:400円(税別)~/月/名

- ※利用料にアカウント発行作業も含まれます。
- ※利用料に通信費は含まれません。
- ※教員向けの研修費は別途費用が掛かります。

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）



総合的な探究の時間は新設科目で、専門の教員免許もなく、特性を異にするノウハウを多く有する教員が未だ多い。当サービスにはカリキュラム・動画・ワークシート・指導マニュアルを備えており、**教員の負担を軽減し、授業の質を改善**することができる。そのことにより、生徒は**コミュニケーションや情報整理などのスキルについて繰り返し実践**することで、探究学習に必要な基礎能力を伸ばすことができる。

児童生徒・教職員が抱える課題

教員が抱える課題

1. 指導ノウハウ不足
2. 授業運営と負担増加
3. 学校全体としての体制構築

生徒が抱える課題

1. テーマ設定の難しさ
2. 探究活動を進めるためのスキル不足
3. 主体性の向上
4. グループワークの難しさ

サービスが果たす役割

教員に対して果たす役割

1. 指導マニュアルを完備することによる、指導の統一化
2. 授業準備の省力化と一定品質の探究活動の支援
3. 評価システムの完備により時系列で評価を管理

生徒に対して果たす役割

1. 既に用意したSDGsに関するテーマに基づいて実施
2. 丁寧なレクチャーによる「知識格差」をなくす
3. マトリクスによる情報整理や思考の整理が可能
4. 思考フレームを体得できるワークシートを用意

「すらら」「すららドリル」は、AIにより生徒の個別最適な学びを実現し、学力差の是正と基礎学力の定着を図る。
また、教材の自動作問・自動採点により、教員の業務負担を大幅に軽減する。また、生徒のつまづきをリアルタイムで可視化する管理機能により、効果的な見取りと声掛けによる個別指導に注力でき、学校全体の指導効率の向上に貢献する。

児童生徒・教職員が抱える課題

教員が抱える課題

1. 個別指導の負担
2. 小テストやプリント作成・採点の業務負担
3. 学習状況・評価の可視化/入力の業務負担

生徒が抱える課題

1. 授業スピードや授業内容が自分に合っていない
2. 授業内容が理解できず、授業についていけない
3. 勉強に対して意欲的になることができない

サービスが果たす役割

教員に対して果たす役割

1. 児童生徒の自律学習を支援し、教員の指導の負担を軽減
2. ペーパーレス化と自動作問・採点機能による負担を削減
3. 学習データが自動的にリアルタイムで反映され、作業工数の効率化を実現

生徒に対して果たす役割

1. 自分のペースで学習することが可能
2. 「分かった」「できた」という成功体験を積む
3. 成功体験を通じて、意欲的に学ぶ姿を形成

サービスの活用風景・授業の流れ(すらら サテライザー)



<p>教員</p> <p>授業準備</p> 	<p>講義</p> 	<p>生徒</p> <p>グループワーク</p> 	<p>評価・振り返り</p> 
<p>授業前</p>		<p>授業中～授業終了後</p>	
<p>教員</p>  <p>全授業指導 マニュアルを確認</p>	 <p>必要な知識・情報を インプット</p>	<p>生徒</p>  <p>思考やアイデアを 整理</p>	 <p>自己・相互評価を 時系列で確認</p>

サービスの活用風景・授業の流れ(すらら・すららドリル)



テスト準備から返却までの時間の变化



■ 探究・校務改革支援補助金における導入実証実績

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	29	学校等教育機関数	56校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	三重県教育委員会	三重県立明野高等学校	三重県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
2	山梨県教育委員会	山梨県立巨摩高等学校定時制	山梨県	高等学校	1~4年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
3	北海道教育委員会	北海道美幌高等学校	北海道	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
4	大阪府教育委員会	大阪府立信太高等学校	大阪府	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
5	静岡県教育委員会	静岡県立ふじのくに中学校磐田本校	静岡県	中学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理(国数英理社情報I)
6	鳥取県教育委員会	鳥取県立境港総合技術高等学校	鳥取県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
7	岩手県教育委員会	岩手県立久慈高等学校長内校	岩手県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
8	熊本県教育委員会	熊本県立牛深高等学校	熊本県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
9	長崎県教育委員会	長崎県立五島南高等学校	長崎県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
10	東京都教育委員会	東京都立小金井工科高等学校	東京都	高等学校	1~4年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
11	群馬県教育委員会	群馬県立高崎東高等学校	群馬県	高等学校	1~2年生	授業・授業準備・成績処理(国数英理社情報I)
12	静岡県教育委員会	静雄県立池新田高等学校	静岡県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
13	静岡県教育委員会	静岡県立湖西高等学校	静岡県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
14	滋賀県教育委員会	滋賀県立栗東高等学校	滋賀県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
15	群馬県教育委員会	群馬県立長野原高等学校	群馬県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
16	岩手県教育委員会	岩手県立軽米高等学校	岩手県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
17	大阪府教育委員会	大阪府立淀川工科高等学校	大阪府	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理(国数英理社情報I)
18	学校法人身延山学園	身延山高等学校	山梨県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理(国数英理社情報I)

■ 探究・校務改革支援補助金における導入実証実績

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	29	学校等教育機関数	56校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
19	福井県教育委員会	福井県立若狭東高等学校	福井県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
20	長野県教育委員会	長野県赤穂高等学校	長野県	高等学校	1~2年生	総合的な探究の時間
21	新潟県教育委員会	新潟県立佐渡総合高等学校	新潟県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
22	岩手県教育委員会	岩手県立伊保内高等学校	岩手県	高等学校	1~3年生	総合的な探究の時間
23	和歌山県教育委員会	和歌山県立伊都中央高等学校(定時制)	和歌山県	高等学校	1~4年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
24	埼玉県教育委員会	埼玉県立吉川美南高等学校	埼玉県	高等学校	1年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
25	学校法人大阪国際学園	大阪国際中学校	大阪府	中学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理(国数英理社情報Ⅰ)
26	学校法人聖母被昇天学院	アサンプション国際中学校高等学校	大阪府	中学校・高等学校	1~2年生	総合的な探究の時間
27	学校法人荒井学園	高岡向陵高等学校	富山県	高等学校	1年生	総合的な探究の時間
28	学校法人サビエル学園	サビエル高等学校	山口県	高等学校	1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
29	学校法人安達学園	中京高等学校	岐阜県	高等学校	1年生	授業・授業準備・成績処理(国数英理社情報Ⅰ)
30	学校法人石川義塾	石川義塾中学校	福島県	中学校	中1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
31	学校法人石川義塾	石川義塾高等学校	福島県	中学校	高1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
32	学校法人昌平賢	東日本国際大学附属昌平中学校	福島県	高等学校	中1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
33	学校法人昌平賢	東日本国際大学附属昌平高等学校	福島県	高等学校	高1~3年生	授業・授業準備・成績処理/総合的な探究の時間
34	沖縄市教育委員会	沖縄市立北美小学校、他2校	沖縄県	小学校・中学校	小1~中3年生	授業・授業準備・成績処理(国算数/数英理社情報Ⅰ)
35	菊池市教育委員会	菊池市立隈府小学校、他14校	熊本県	小学校・中学校	小1~中3年生	授業・授業準備・成績処理(国算数/数英理社情報Ⅰ)
36	那覇市教育委員会	那覇市立城南小学校、他3校	沖縄県	小学校・中学校	小1~中3年生	授業・授業準備・成績処理(国算数/数英理社情報Ⅰ)
37	川西町・三宅町式下中学校 組合教育委員会	川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校	奈良県	中学校	中1~3年生	授業・授業準備・成績処理(国算数/数英理社情報Ⅰ)

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証 ~すらすら サテライザー~

※こちらの効果検証は私立学校での検証結果になります。

図1：指導体制の変化（効率化と規模の拡大）



今までの指導体制を「2名で15名」から「1名で31名」へ4倍の生産性の向上に成功。今までは先生の負担が大きかったが、授業準備時間を大幅に削減し、進行はツールに頼ることで、先生が伴走役に徹することが可能になったため、クラス全体への効果的なアプローチが可能になった。

定性的効果検証 ～すらら サテライザー～

私立高校の教員による声をまとめました

教員への効果：指導の効率化と負担軽減



BEFORE：
2名で15名を指導

指導体制が
劇的に効率化！



AFTER：1名で31名の
クラス全体を指導可能に



授業準備の時間が大幅に削減

パッケージ化された教材により、ゼロからテーマや資料を作成する手間が不要に。



指導スキルの属人性を解消

指導案が用意されているため、探究学習の経験が浅い教員でも質の高い授業が実現可能。

生徒への効果：学習ハードルの低下とスキル習得



「興味がない」生徒も
探究学習に参加

「宇宙」など具体的で非日常的なテーマが、学習への抵抗感をなくすきっかけに。



グループワークのスキルが向上

役割分担や時間制限のフレームワークが提示され、生徒が迷わず議論に参加できる。



将来につながる「探究の型」を習得

ツールが練習教材となり、自由研究へ移行するための基礎スキルを学べる。

教材のパッケージ化により指導スキルの属人性を解消。具体的かつ非日常的なテーマ設定と議論のフレームワーク提示により、生徒の興味関心を引き出し、将来に生きる「探究スキル」の確実な習得を促進することができた。

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証～すらら～

年間約47時間の業務削減

■活用シーン

朝学習／週末課題での課題

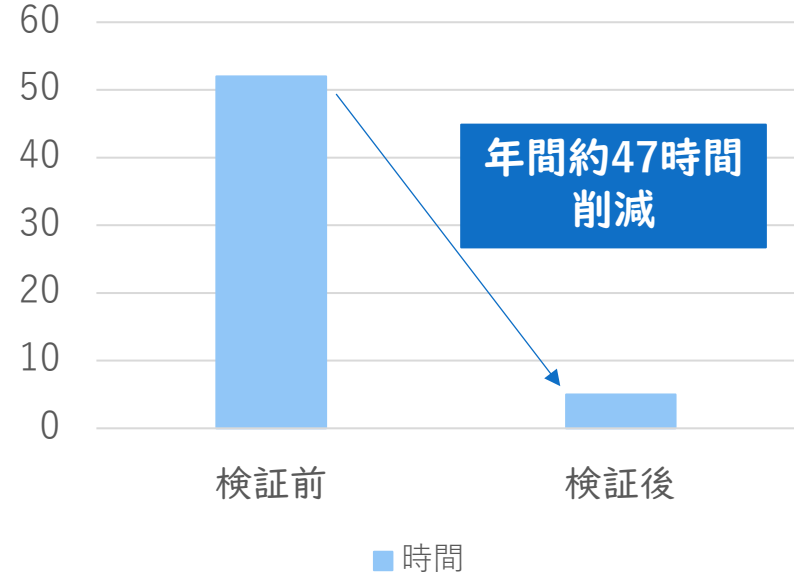
■定量的な効果

従来の紙ベースの週末課題運用と比較し、1クラスあたり約60分～90分の削減

業務工程	従来(アナログ)	導入後(ICT活用)	削減効果
課題作成・印刷	約30分	約10分 (配信設定のみ)	△20分
回収・欠席者チェック	約15分	約0分 (自動集計)	△15分
採点・ハンコ押し	約45分	約0分 (自動採点)	△45分
合計	約90分	約10分	△80分



週末課題に要した時間



※合計時間80分の削減は教員1人あたりの効果になります。
 ※検証結果は特定の学校での結果になります。
 N=3(数学の教員による検証結果になります)

定性的効果検証 ～すらら～

実証校の先生による「生徒の学習姿勢」や「教員の指導体制」における変化について(インタビューより抜粋)

① 生徒の学び方・意欲の変化

▼自己肯定感の向上

満点を取った生徒が自ら教員に報告に来るなど、**スモールステップでの成功体験**が学習意欲を刺激している。

▼提出率の改善

従来の紙の課題では提出率が低かった生徒が、デジタル教材(すらら)であれば**積極的に取り組む**傾向が見られた。

▼学習の個別化:

「動画レクチャーがわかりやすい」と感じる生徒や、自分のペースで「学び直し」を行う生徒など、**個々の特性に合わせた学習が展開されている。**

② 指導・校務の変化

▼指導の重点化

基礎的なレクチャーやドリルを教材に委ねることで、教員は**生徒とのコミュニケーション**や、より**高度な指導に注力できる**環境を整え、**授業準備の効率化**も実現できるようになった。

▼成績データの可視化

1ヵ月単位の学習時間や单元ごとの正答率など、**詳細なデータに基づいた生徒把握**が可能になった。

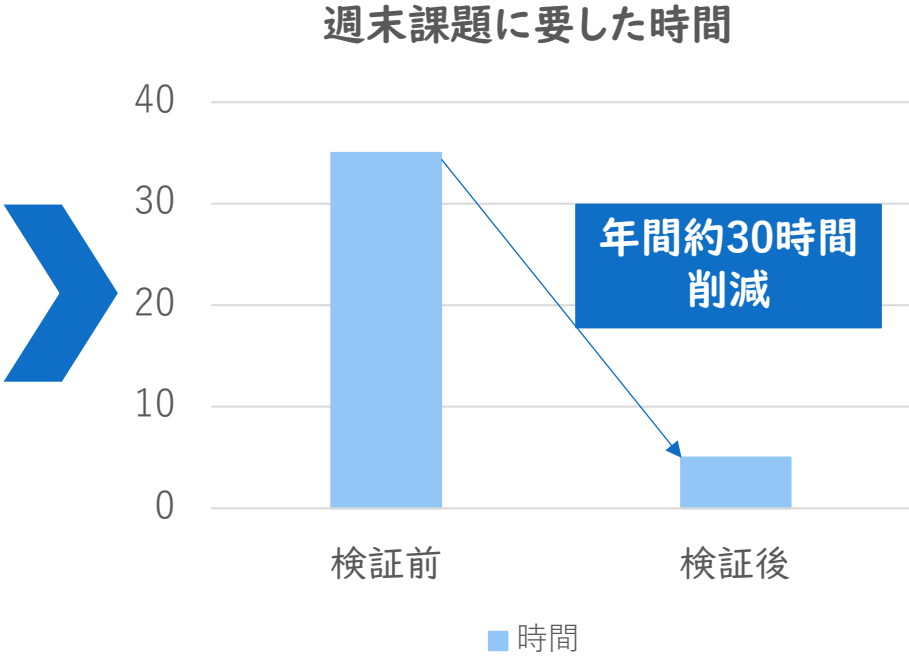
■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証 ~すらすらドリル~

年間約30時間の業務削減

- 活用シーン
 家庭学習、授業演習、隙間時間
- 定量的な効果(単位:/日)

	従来 (アナログ)	実証 (デジタル)	検証効果
理解度に応じた「複数難易度ある」問題の作成	約30分	約10分 (問題の抜粋)	△20分
問題用紙の印刷	約5分	約0分(自動集計)	△5分
用紙回収・採点	約25分	約0分(自動採点)	△25分
計	約60分	約10分	△50分



※合計時間50分の削減は教員1人あたりの効果になります。
 ※検証結果は特定の1校での結果になります。

すらら サテライザー

- ・**導入時**:既に年間計画がある中で、目標達成を加速化する「補完ツール」とした提案を実施する。
- ・**実施中**:過密な年間計画に対し、即時活用できるように、要点を絞った研修やガイドを提供することで、教材理解の負担を軽減する。
- ・**実施後**:導入前後での変化を数値化し、既存ツールや既存での取り組みを比較し、次年度の全校展開に向けた判断材料を提供する。

直面した課題

1. 導入時の課題

- ・学校として既に3年間の計画が出来上がっている

2. 実施していく中での課題

- ・年間計画が出来上がっている中で実施時間の捻出
- ・先生方への教材理解

3. 実施した結果、新たに顕在化した課題

- ・限られた期間での成果抽出
- ・導入における意思決定材料の不足

解決するための改善策

1. 導入時の課題への改善策

- ・教育目標達成を加速するエッセンスとしての提案

2. 実施していく中での課題への改善策

- ・創出可能な時間の中での活用案の提示
- ・要点を絞った研修やマニュアルの準備

3. 実施した結果、新たに顕在化した課題への解決策

- ・成果指標を先生方とすり合わせの実施
- ・意思決定材料のヒアリングと適切な方法の提示

公立中学校教員より～すららドリル利用～

小学校範囲～高校範囲まで、学び直しから先取学習と問題量・難易度共に充実しているため、同じ問題が出題される心配がない。



公立中学校生徒より～すららドリル利用～

今までは勉強が楽しいと感じることが少なかったが、ゲーミフィケーション機能があり、勉強することで、キャラクターが育ち楽しく勉強に取り組めるようになった。



私立中学校教員より～すらら利用～

今までは長期休暇の課題準備がとても大変だったが、「すらら」を活用することで範囲を指定して配信するだけになったため、業務の効率化を実感できた。



私立中学校教員より～すらら利用～

学習時間や取り組んだ単元数が正確にデータとして残るため、教員が成績管理を実施する際に、生徒の取り組みを客観的な数値として評価に活用しやすくなった。



私立高校教員より～すらら サテライザー利用～

探究学習は「何を指導していいかわからない」という課題があったが、指導案やワークシートの用意があるため、どんな教員でも質の高い授業が実施できるようになった。



私立高校教員より～すらら サテライザー利用～

生徒のルーブリックや他者評価がシステム上で完結するため、アナログな集計作業が不要となり、データに基づく指導が可能になり、業務の削減も叶えることができた。



すらら/すららドリル

- ・**導入時**: 年度途中のため、既存業務の置き換えを強調し、業務時間の削減を提案することで、先生方にメリットを感じてもらう。
- ・**実施中**: 先生方の理解を得るために研修に参加できなかった教員へのケア、「活用シーン別事例」を紹介し、ゼロから考える負担を抑える。
- ・**実施後**: 活用状況の差を埋めるため、先行事例を横展開し、学習データのレポートを作成することで、客観的な効果を確認できる体制を整える。

直面した課題

1. 導入時の課題

- ・年度途中に新たな教材を実施することに対する抵抗感

2. 実施していく中での課題

- ・先生方への理解や研修の時間の確保
- ・活用場面の検討

3. 実施した結果、新たに顕在化した課題

- ・限られた期間での成果抽出
- ・活用する科目や学年が先生によって差がある

解決するための改善策

1. 導入時の課題への改善策

- ・既存業務の削減(引き算)であることを全体に周知する

2. 実施していく中での課題への改善策

- ・参加できなかった先生方への研修動画の活用
- ・具体的な活用場面を組み込んだ活用例の紹介

3. 実施した結果、新たに顕在化した課題への解決策

- ・成果指標を先生方とすり合わせの実施
- ・レポートによる見える化



社名	株式会社すららネット
代表	湯野川 孝彦
設立年月	2008年8月
本社	東京都千代田区内神田1-14-10 PMO内神田7階
資本金等	2億9837万円
売上高等	19億1,900万円
従業員数	96名
事業内容	e-ラーニングによる教育サービスの提供および運用 コンサルティング、マーケティングプロモーション及び ホームページの運営

■お問い合わせ窓口

担当:林 俊信(はやし としのぶ)

電話:03-5283-5158

Mail:gakkou@surala.jp

※2025年12月時点の情報です